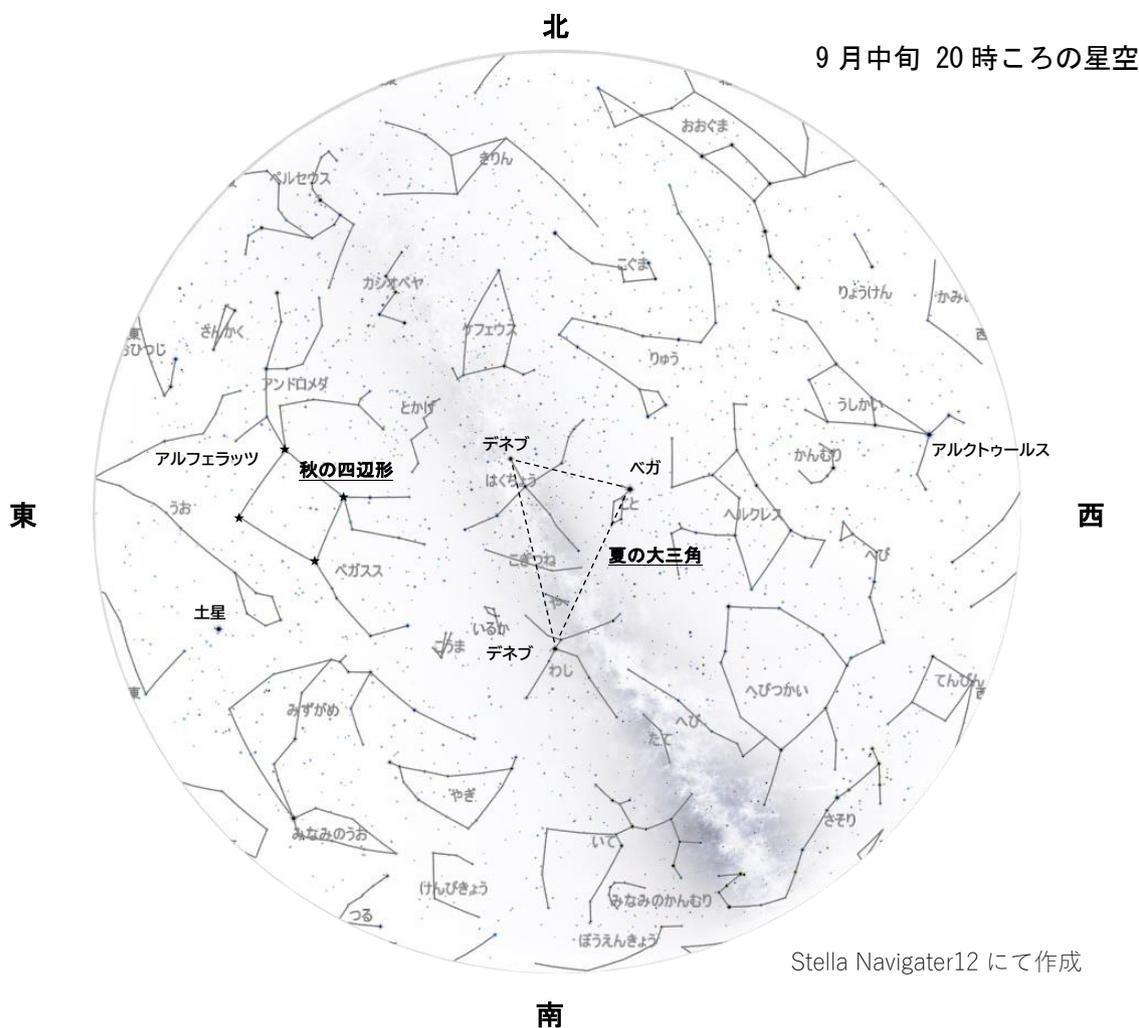


星宙通信 2025年 9月号

9月の星空にはまだまだ夏の星座が天高く上がっています。北東の空に「W」の形に五つの星が並びカシオペヤ座を見つけたら、ここから天頂に広がる「夏の大三角」に視線を移してみましょう。そこは天の川の道筋なのです。秋の星座と共に、まだまだ天の川の見頃は続きます。

「夏の大三角」から真東へと視線を移すと、2等星が作る「秋の四辺形」が見つかります。これは秋の星座ペガスス座にあたり、「ペガサスの四辺形」とも呼ばれます。天馬ペガサスの頭から首、両前足も描かれています。馬のへそを意味するアルフェラッツ(★印)ですが、ここから等間隔に三つの星がならぶのがアンドロメダ座です。(下図参照)ギリシャ神話では、アンドロメダはカシオペヤの娘です。アンドロメダ姫の足元からは、秋の物語の主人公ペルセウス座も上がってきます。南東の空には、秋の誕生十二星座やぎ・みずがめ・うお座も輝きます。みずがめ座とうお座の間には見頃を迎えた土星が0.6等の明るさで輝きます。

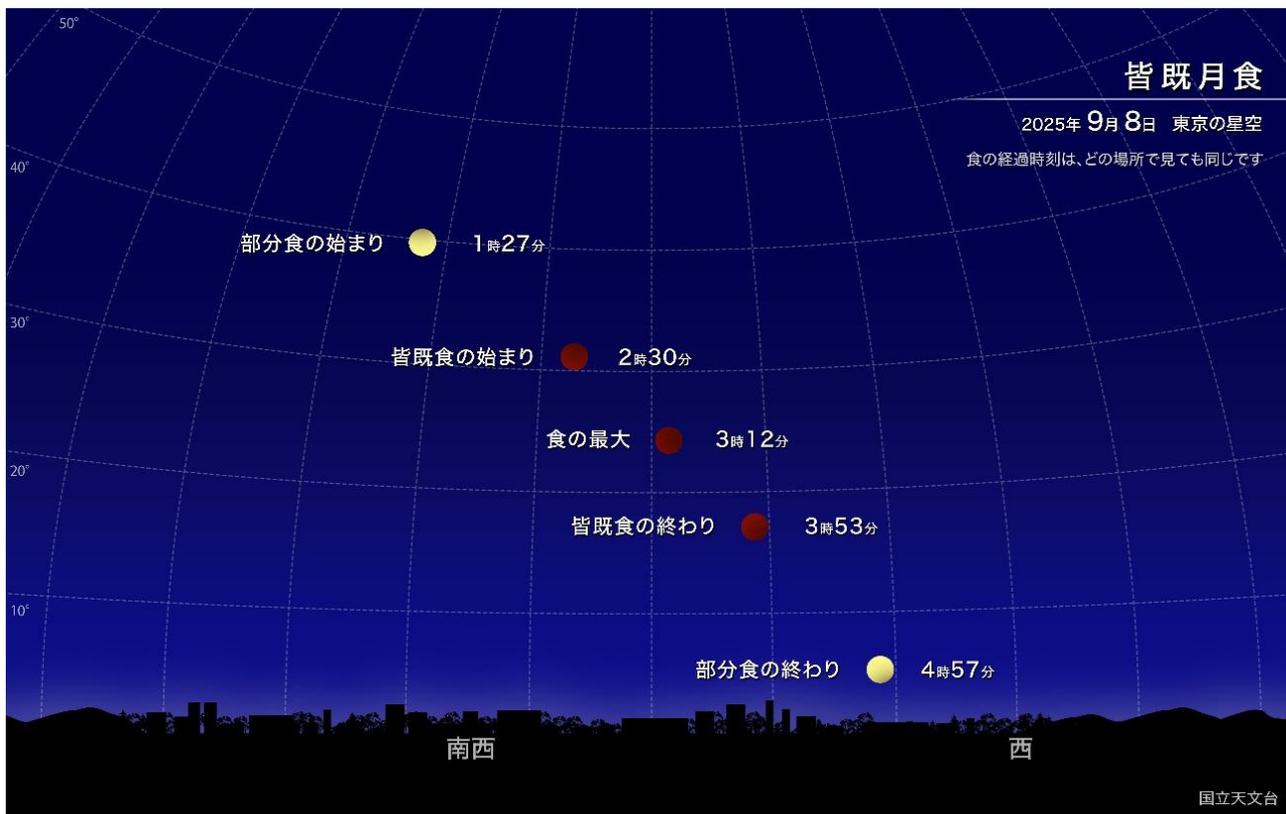
29日 18:10頃、月面Xが見られます。



= 9月の星ごよみ =

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 7日(日) 二十四節気「白露」 | 22日(月) 土星が衝(観望の好機) |
| 8日(月) 皆既月食(裏面参照) / ☾ 満月 | 月と水星が接近 |
| 9日(火) 21時 9月ペルセウス座流星群が極大 | 23日(火) 二十四節気「秋分」 |
| 14日(日) ☾ 下弦 | 海王星がうお座で衝(観望の好機) |
| 19日(金) 月が金星に接近 | 28日(日) 月がアンタレスに接近 |
| 20日(土) 秋の彼岸の入り | 29日(月) 18:10頃 月面Xが見られる |
| 22日(月) ● 新月 | 30日(火) ☽ 上弦 |

9月8日 皆既月食



9月8日未明にかけて、3年ぶりに皆既月食が起こります。時間は上図の通り、7日の夜から日が変わった8日深夜です。お間違えのないように……

月が欠け始める事を「**部分食**」と呼び、すべてが隠れる現象を「**皆既月食**」と呼びます。今回、「部分食」の始まりが午前1時30分前ころ、食が進み「皆既」に入るのが2時30分頃になります。「皆既」は3時50分過ぎに終了し、ここから「部分食」を経て通常の月に戻ります。

さて、「**月食**」がなぜ起こるのかご存じでしょうか…

太陽に照らされた地球は、反対側に丸い「自分の」影を作っています。太陽、地球、月が一直線に並ぶと「満月」になるわけですが、「**月食**」はこの「地球が作った影」の中を月が通過する現象です。ですから月食は必ず満月の日のみに起こります。ところが、満月が毎回月食にならないことは皆さんもご存じですね。これは月の公転軌道が地球の公転軌道に対して5.1°傾いているためです。月と地球の公転軌道が交わったところで満月になる時のみ、「月食が起こる」のです。(下図を参照ください)

